

日本気象学会

1992年度春季大会

会期：1992年5月26日（火），27日（水），28日（木）

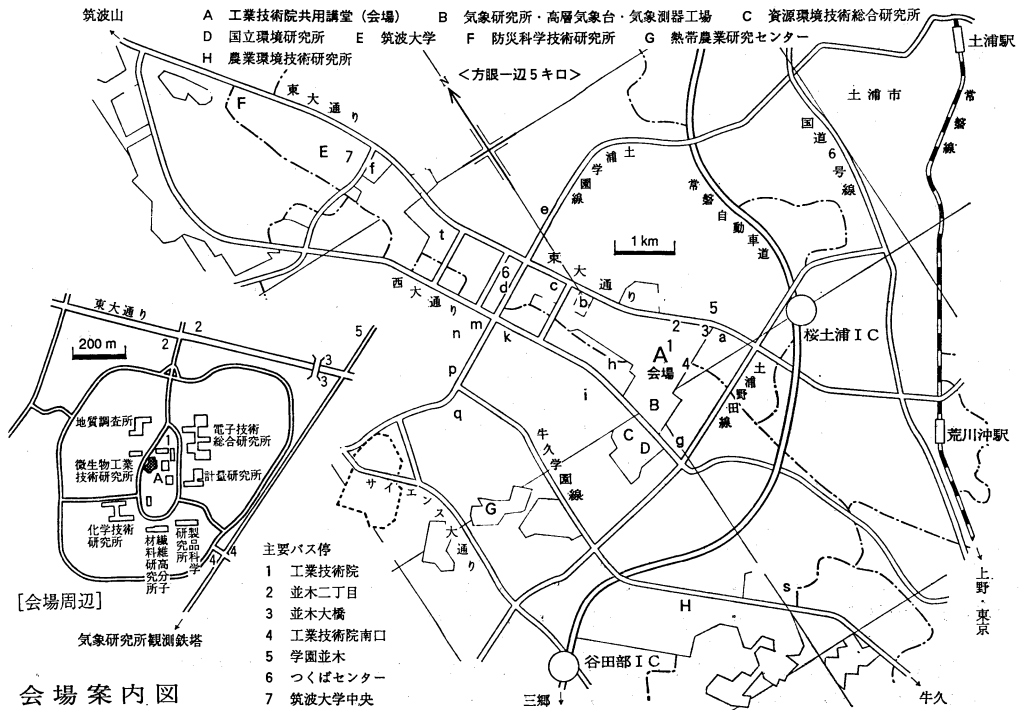
会場：工業技術院筑波研究センター共用講堂

（電話 0298-51-1563, Fax 0298-51-1593）

目次

会場案内	247
大会行事予定表	248
総会次第	249
シンポジウム内容	249
研究発表題目	252～263

会場案内図



大会行事予定

- 会場：工業技術院筑波研究センター共用講堂（電話 0298-51-1563, Fax 0298-51-1593）
 - A会場：大講堂（1階）
 - B会場：大会議室（2階）
 - C会場：中会議室（1階）
 - D会場：多目的会議室（1階）
 - ポスター会場：A会場前（1階）
 - 懇親会場：A食堂
- 会期：5月26日（火）、27日（水）、28日（木）

（ ）は講演数（第1種—第2種と講演番号）

	A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	
5月26日 (火)	09:30~ 12:30	メソ現象Ⅰ (12-4, A101~A116) —三角幸夫—	気象力学Ⅰ (6-7, B101~B113) —中島健介—	オゾン (11-4, C101~C115) —福西 浩—	陸面・大気相互作用 (13-3, D101~D116) —杉田倫明—
	13:30~ 14:00	ポスター・セッション概要紹介			(P101~P114)
	14:00~ 16:00	シンポジウム「新しい観測システム」 座長：田中豊顕			
	16:00~ 17:00	ポスター・セッション			
5月27日 (水)	09:00~ 12:30	メソ現象Ⅱ (10-2, A201~A212) —入田 央— 大気境界層と下層雲 (3-3, A213~A218) —中村晃三—	気象力学Ⅱ (5-2, B201~B207) —松田佳久— 海洋・大気相互作用 (10-2, B208~B219) —長井嗣信—	大気成分 (6-5, C201~C211) —堤 之智— 酸性雨 (8-1, C212~C220) —丸田恵美子—	中層大気 (8-8, D201~D216) —中村卓司—
	13:30~ 14:15	トピック（ピナツポ火山噴煙に関連した最新の話題）			
	14:15~ 17:00	総会・学会賞・藤原賞授与 学会賞・藤原賞・堀内基金奨励賞記念講演			
	17:30~ 19:30	懇親会			
5月28日 (木)	09:00~ 12:30	メソ現象Ⅲ (7-3, A301~A310) —永田 雅— メソ現象Ⅳ (7-4, A311~A321) —新野 宏—	気候変動Ⅰ (4-4, B301~B308) —新田 勲— 気候変動Ⅱ (7-3, B309~B318) —千葉 長—	ピナツポ噴煙 (10-1, C301~C311) —中島映至— エアロゾル (7-2, C312~C320) —池上三和子—	観測手法 (10-2, D301~D312) —内藤玄一— 局地風 (8-1, D313~D321) —森 征洋—
	13:30~ 17:00	雲物理・大気電気 (11-7, A351~A368) —山田芳則—	グローバル気候 (6-1, B351~B357) —岩嶋樹也— 熱帯大循環 (4-3, B358~B364) —西 憲敬—	放射 (17-1, C351~C368) —増田一彦—	環境気象 (7-5, D351~D362) —大和田道雄—

発表件数 289件（第1種講演 197, 第2種講演 78, ポスター 14）

ポスター概要紹介, シンポジウム, トピック, 総会・式典, 記念講演は, すべてA会場で行う

大会参加費 一般会員 2,500円, 学生会員 1,500円, 非会員 2,500円

講演発表者へのお知らせ

- 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
- スライドの場合, マウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
- ポスター・セッションの方法については「天気」12月号 (p. 773) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表名を明記して下さい。なお, 概要紹介は1件2分以内です。

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長挨拶
4. 学会賞授与
5. 藤原賞授与
6. 1991年度事業経過報告
7. 1991年度会計決算報告
8. 1991年度会計監査報告
9. 1992年度事業計画案・予算案の審議
10. その他
11. 閉会の辞

なお、総会に引き続き学会賞、藤原賞および1991年度堀内基金奨励賞受賞記念講演を行う。

シンポジウム「新しい観測システム」

1. 日時 大会第1日（5月26日）14：00～16：00
2. 会場 A会場
3. 座長 田中豊顕（気研・衛星観測）
4. パネリスト並びに講演内容一覧

区分	サブテーマ	パネリスト（所属）	
水分計	電磁波式土壌水分計による土壌水分量変化の測定（TDR法）	安原 正也（地質調査所）	
	マイクロ波散乱計による積雪水量・表層土壌水分量の測定	深見 和彦（土木研究所）	
レーダー	Lバンドレーダーによる境界層観測	深尾昌一郎（京大・超高層）	
	ドップラーレーダーによるメソスケール擾乱の把握	大野 久雄（気象研究所）	
ライダー	ライダーによる大気観測	内野 修（気象研究所）	
ゾンデ 航空機	テレビゾンデ（HYVIS）、ビデオ顕微鏡（AVIOM）、PMSプローブ（FSSP、OAP）による降水粒子、雲粒子の観測	村上 正隆（気象研究所）	
衛星	TRMM 計画について	新田 勲（東大気候システム）	
	ADEOS	IMG センサーについて	小川 利紘（東京大学）
		ILAS/RIS 観測プロジェクトの概要	笹野 泰弘（国立環境研究所）

【略語の解説】

- 1) HYVIS: Hydro-meteor Video Sonde（ハイビス：雲粒子/降水粒子ビデオゾンデ）
- 2) AVIOM: Airborne Video Optical Microscope（アビオム：航空機搭載雲粒子ビデオ顕微鏡）
- 3) PMS: Particle Measuring System Co. Ltd.
- 4) FSSP: Forward Scattering Spectrometer Probe（前方散乱式雲粒子スペクトル計）
- 5) OAP/2D: Optical Arrey Probe/2-Dimensional Probe（雲粒子/降水粒子 2次元光学

- センサー)
- 6) TRMM: Tropical Rainfall Measuring Mission (熱帯降雨観測ミッション, 熱帯降雨推定ミッション)
 - 7) ADEOS: Advanced Earth Observing Satellite (地球観測プラットフォーム技術衛星)
 - 8) IMG: Interferometric Monitor for Greenhouse (温室効果気体センサー)
 - 9) ILAS: Improved Infrared Limb Absorption Spectrometer (改良型周縁大気吸収赤外分光計)
 - 10) RIS: Retroreflector In-Space (地上・衛星間レーザー長光路吸収観測用リトロフレクタ)

最後に総合討論を行う。

関連見学会「つくばの観測システム」

このシンポジウムに関連して大会終了翌日の5月29日午前に「つくばの観測システム」の見学会(国立環境研究所, 地質調査所, 高層気象台, 気象研究所)を開催します。詳細は, 大会会場内に掲示致します。

トピック——ピナツボ火山噴煙について

1. 日時 大会第2日(5月27日) 13:30~14:15
2. 会場 A会場

ピナツボ火山噴煙に関連した最新の話題について, 2~3件の講演を予定しています。

研究会のお知らせ

大会に合わせて下記の研究会が行われます(3月4日受付分)。興味のある方はご自由にご参加下さい。

1. 第3回メソ気象研究会
日時: 5月25日(月) 13:00~17:00
会場: 気象研究所講堂(気研1階)
テーマ: 「風をつかまえろ!」
コンビナー: 吉崎正憲(気研・台風)
プログラムの詳細は「天気」2月号(107ページ)参照
2. 大気-海洋相互作用研究会
日時: 5月25日(月) 13:30~17:00
会場: 気象研究所第1会議室(2階)
テーマ: 「中・高緯度における大規模大気-海洋相互作用」
コンビナー: 花輪雄雄(東北大・理)
プログラムの詳細は「天気」3月号(168ページ)参照
3. 極域研究連絡会1992年春季研究会
日時: 5月25日(月) 14:30~17:00
会場: 大会会場
テーマ: 南極域の物質循環
世話人: 神沢 博(極地研)
プログラムの詳細は「天気」3月号(158ページ)参照
4. IGBP/GAIM 研究会(仮称)
日時: 5月29日(金) 午前
会場: 気象研究所
世話人: 及川武久(筑波大・生物科学), 木田秀次(気研・応用)
詳しい日程・内容は学会会場でお知らせします(会の趣旨については「天気」3月号168ページ参照)

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

研究発表題目

(講演番号の*印は第2種講演を, 発表者名の*印は講演者を表す).

大会第1日(5月26日)9時30分~12時30分

A会場 メソ現象 I

座長 三角幸夫(気研・予報)

- A101. *荒生公雄・久保田由美(長崎大・教育), 河田誠(有馬商高): 雲仙に土石流を発生させた1991年6月30日の豪雨
- A102. *森 一正・田中 実(気研・台風), 飛田 良(気象庁・海上気象): 西部熱帯太平洋上のクラウドクラスターのレーダー観測(続)——啓風丸91-05次観測航海速報
- A103. *渡辺 明(福島大・教育), 上田 博(北大・理), 山中大学(京大・超高層), 住 明正(東大・気候システム): 梅雨前線帯の meso 構造 II
- *A104. *高橋暢宏・上田 博・清水収司・菊地勝弘(北大・理), 山中大学(京大・超高層): 梅雨前線に伴う降雨システム中に発生した弧状に発達した積乱雲の構造について
- *A105. *清水収司・上田 博・高橋暢宏・遊馬芳雄・上野圭介(北大・理), 渡辺 明(福島大・教育), 山中大学(京大・超高層), 住 明正(東大・気候システム): 信楽における梅雨前線の構造の観測(3)——1991年7月4日~5日の事例——
- A106. *上田 博・高橋暢宏・清水収司・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 川崎善一郎(大阪大・工), 渡辺 明(福島大・教育), 山中大学(京大・超高層), 園井康夫(関西電力): 信楽における梅雨期の雷雲の構造の観測
- *A107. *三隅良平・武田喬男(名大・水圏研): 積乱雲群の3次元数値モデリング——対流セル群の組織化の過程——
- A108. 山岬正紀・瀬古 弘(気研・台風): 対流に対する重力波の効果について
- A109. *久原和治・高橋 勲(九大・理), R. Carbone(NCAR): ハワイレインパンドの雲力学雲物理学的構造
- A110. *岩崎博之(気研・台風), 加藤内蔵進(名大・

水圏研): 梅雨期中国華南~華北における雲クラスター周辺の地上水蒸気量の時間変化

- *A111. *山中大学・深尾昌一郎・津田新吾(京大・超高層), 小森裕之・前川泰之(大阪電通大), 橋口浩之(京大・超高層), 佐藤 亨(京大・工), 津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MUレーダーによる台風9019号の観測
- A112. *岡村博文・森 一正・赤枝健治(気研・台風): 台風9110号の東西断面解析
- A113. *藤井 健(京都産業大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 台風9119号の気圧場の客観解析と傾度風速の分布について
- A114. 柳野 健(気象庁・数値予報): 台風9119号による昇温と数値予報
- A115. 藤部文昭(気研・予報): 台風による北日本の強風分布——洞爺丸・第2室戸・9119の比較——
- A116. 三角幸夫(気研・予報): レーダーアメダス合成図上の降水雲塊 1. 降水雲のスケール

B会場 気象力学 I

座長 中島健介(東大・気候システム)

- B101. *田島俊彦・川平浩二・浅田朋子・戸川 巧・舟瀬真一・森 秀一(富山高専): 温度差を与えた回転円筒流体の底における流れについて
- *B102. *菅田誠治・余田成男(京大・理): 回転水槽実験での定常軸対称循環——簡単モデルによる理解——
- *B103. *木村陽一・松田佳久(気大): 傾圧不安定波によって励起される子午面循環と波動
- *B104. 佐藤正樹(東大・気候システム): 軸対称モデルを用いたハドレー循環; 鉛直対流と水平対流
- *B105. *村崎万代(筑波大・環境), 木田秀次・千葉長(気研): 南北半球間の大気交換におけるハドレー循環の役割について
- B106. 三好勉信(九大・理): 水の物理過程を排除した場合の大循環について
- *B107. 沼口 敦(国立環境研): 熱帯降水帯とハドレー循環の湿潤静的エネルギー収支

- B108. 中島健介(東大・気候システム):二次元大領域積雲モデルにおける「風速-海面フラックスフィードバック」
- *B109. *竹広真一(東大・理), W.R. Young (Scripps Institution of Oceanography): 回転球殻の赤道域でのビジネス対流
- B110. *石渡正樹・林 祥介(東大・理): 2次元対流のセルサイズ:境界条件の影響に注目して
- *B111. *足立樹泰・津田敏隆(京大・超高層), 増田悦久(通信総研), 木崎正士・深尾昌一郎・加藤進(京大・超高層): MU レーダー/RASS による対流圏の温度及び風速の高時間分解能観測
- B112. *松山勇二(九大・理), 大河内康正(八代高専), 宮原三郎(九大・理): 対流から発生する内部重力波に関する数値実験
- B113. 牛丸真司(名大・水圏研): 低緯度東風領域でのロスビー波の反射過程
- C会場 オゾン**
座長 福西 浩(東北大・理)
- *C101. *原藺芳信(農環技研), 山田千絵(NEC): 農林生態系における O₃ 濃度とフラックスの動態
- *C102. 村松久史(京大・防災研): 地上オゾンに対する光化学と輸送の寄与
- C103. *堤 之智・牧野行雄・佐々木 徹(気研・物理): 平成4年2月に行った航空機観測によるオゾンの分布について
- C104. 近藤幸治(高層気象台): 札幌におけるオゾンゾンデプロファイルの変化の特徴
- C105. *田口 真・岡野章一・福西 浩(東北大・理): 可搬型レーザーヘテロダイン分光計による大気オゾン, メタン, 一酸化二窒素の観測
- C106. *中根英昭・林田佐智子・松井一郎・笹野泰弘・杉本伸夫(国立環境研), 福西 浩・岡野章一・田口 真・小出理史(東北大・理), 藤本光昭・河鱈公昭・水野 亮・今岡啓治(名大・理), 林 則雄(高層気象台): ビナツボ火山起源エアロゾル存在下における冬季オゾン層集中観測(速報)
- *C107. *比留間文彦・竹内延夫(千葉大), 土屋 清(帝京大): TOMS 画像に現われる台風に伴うオゾン分布変化の気象データに基づく分類
- C108. *千葉 長・山崎孝治・小寺邦彦(気研・気候): オゾンの生成消滅と3次元輸送の数値実験
- C109. 佐々木 徹(気研・物理): オゾン層モデルへの不均一相反応の組み込み
- *C110. *川平浩二・恒田正哉・蜷川直樹(富山高専): TOMS オゾン量観測データの解析(1)
- C111. JANUSZ W. KRZYSCIN(気研・物理): THE ARCTIC OZONE HOLE DERIVED FROM GROUND-BASED MEASUREMENTS IN THE PERIOD 1957-1990
- C112. *川平浩二(富山高専), 廣岡俊彦(気大), 神沢博(極地研): 昭和基地におけるオゾン量および月平均風の経年変化
- C113. 忠鉢 繁(気研・物理): 南極昭和基地で観測されたオゾン高度分布の100 mb 気温に対する応答
- C114. *神沢 博・藤井良一(極地研), 山崎孝治(気研・気候), 山中大学(京大・超高層): ボーラー・パトロール・バルーンによる1991年のオゾンホール観測実験(1) トラジェクトリー解析
- C115. *林 政彦(名大・STE研), 村田 功(東大・理), 藤井良一(極地研), 岩坂泰信・近藤 豊(名大・STE研), 神沢 博(極地研): ボーラー・パトロール・バルーンによる1991年のオゾンホール観測実験(2) オゾンおよびPSCsの観測データ解析
- D会場 陸面・大気相互作用**
座長 杉田倫明(筑波大・水理実験センター)
- D101. 近藤純正(東北大・理): 拾ってきた松の木に学ぶ地球の水循環
- D102. 近藤純正・*桑形恒男(東北大・理): 日本の水文気象(1): 放射量と水面蒸発
- *D103. 近藤純正・*中園 信・渡辺 力・桑形恒男(東北大・理): 日本の水文気象(2): 森林蒸発散量
- D104. 近藤純正・*渡辺 力(東北大・理): 広域森林蒸発散用のタンクモデル
- D105. 加藤真規子(気研・物理): 表面粗度が滑から粗へ変化する場合の拡散(風洞実験)
- D106. *文字信貴・井上 誠・鱧谷 憲・小元敬男(大阪府大・農): 異なる植物群落内の乱流変動の比較
- D107. *開發一郎(広島大), 坂井紀之(気象協会), 福岡義隆(広島大): 土壤水分, 太陽高度, 粗度の砂質土壌草地面のアルベドに及ぼす影響

- *D108. 近藤純正・*松島 大(東北大・理):長波放射による晴天日の大気冷却率を求める簡便式
- *D109. *大塚清敏(榊大林組・技術研), 田中正之(東北大・理):南極 coreless winter の形成における斜面下降風と子午面循環の役割
- D110. 藤谷徳之助・三上正男・青木輝夫(気研), 張希明・朱 衛東・夏 訓誠(中国科学院新疆生物土壤沙漠研):タクラマカン砂漠における観測(1)——地上気象要素の観測——
- D111. 藤谷徳之助・三上正男(気研・応用), 張希明・朱 衛東・夏 訓誠(中国科学院新疆生物土壤沙漠研):タクラマカン砂漠における観測(2)——土壤物理要素の測定——
- D112. *大畑哲夫(名大・水圏研), 太田岳史(岩手大・農):チベット高原中央部における大気-陸域系の特性(1)——地表面水・熱フラックス——
- D113. 佐藤律子・甲斐憲次(筑波大):日本の湿潤地域と中国乾燥地域(HEIFE 砂漠観測点)における地表面熱収支特性について
- D114. *真木太一(熱帯農研), 潘 伯榮・閻 国榮(中国科学院新疆生物土壤沙漠研):中国トルファンにおけるタマリスク防風林による気象改良・堆砂効果
- D115. 蒲生 稔(資源環境研):砂漠の混合層(その2)
- D116. *蒲生 稔(資源環境研), Wantanee Phanprisit(タイ保健省), 林 正康(資源環境研):バンコクの混合層

大会第1日(5月26日) 13時30分~14時00分

A会場 ポスター・セッション概要紹介

座長 吉門 洋(資源環境研)

- P101. 尾瀬智昭(気研・気候):雲水を予報変数として取り扱った GCM 実験
- P102. 田中 実(気研・台風):GMS 上層雲量によるアジア・西太平洋上における夏季モンスーンの季節内変動の年々変動
- P103. 大畑哲夫(名大・水圏研):チベット高原中央部における大気-陸域系の特性(2)——一時的積雪の影響——
- P104. 二階堂義信(気研・気候):土壌の記憶能力に関する簡単な実験
- P105. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 松本淳(東大・地理), 中澤哲夫(気研・台風):AMeDAS 等を用いた降水日周期解析
- P106. *斉藤和雄(気研・予報), 猪川元興(故人):非静水圧局地モデルによるメソ風系のシミュレーション(2)——気象庁 JSM とのマルチネスティング——
- P107. *里村雄彦(気研・応用), Ph. BOUGEAULT(CNRM, FRANCE):PYREX 期間中の地形性重力波抵抗
- P108. *鈴木力英・河村 武(筑波大・地球科学):総観規模の気圧傾度が海陸風に及ぼす影響の統計解析
- P109. 藤部文昭(気研・予報):関東平野における暖候期の気温分布の日変化・経年変化
- P110. 亀卦川幸浩・*岡野章一・田口 真・福西 浩(東北大・理):NOAA 衛星 TOVS データを用いたオゾン全量水平分布の導出(2)
- P111. H.L. Tanaka(筑波大):Blocking formations by the upscale energy cascade
- P112. *菊地直吉・内藤勲夫(国立天文台):天文励起関数と大気励起関数の比較
- P113. *後藤幸夫(国立天文台), 村田一則・木村富士男(東北大・理), 内藤勲夫(国立天文台):大気角運動量の季節内変動について
- P114. 佐藤信夫(気象庁・数値予報):全球4次元データ同化・予報システムによる広域水収支の推定

大会第2日(5月27日) 9時00分~12時30分

A会場 メソ現象 II

座長 入田 央(気象庁・予報)

- A201. 文部省科学研究費重点領域研究(自然災害)「都市豪雪」研究グループ[研究代表者:*菊地勝弘(北大・理)]:石狩湾周辺における降雪雲の発生・発達過程の観測——その1:観測の概要——
- *A202. *上野圭介・上田 博・遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理), 降雪雲レーダー観測グループ:石狩湾周辺における降雪雲の発生・発達過程の観測——その2:1992年1月23日の降雪雲の構造の

時間変化——

- A 203. *高橋暢宏・上田 博・遊馬芳雄・上野圭介・菊地勝弘(北大・理):石狩湾周辺における降雪雲の発生・発達過程の観測——その 3:小規模渦状擾乱——
- A 204. 宮本正明・吉川英一(JAS):北海道,東北西岸沿海域の特異な気圧分布——石狩湾低気圧の一例——
- A 205. *立花義裕・佐藤晋介・兒玉裕二・山田知充(北大・低温研):北海道都市型降雪と陸風の規模との関係について
- A 206. *野口晋孝・青梨和正(気研・予報):北東気流雲の JSM による型別予報の解析
- A 207. *入田 央・北村雅仁・増淵美彦(気象庁・予報):関東南海上のシャーラインに発生するメソ低気圧による悪天のメソ天気系モデル
- A 208. 二宮洗三(気象庁・海洋気象部):大陸東岸の主低気圧北西象限の Polar Low 発生過程
- *A 209. *永戸久喜・佐藤 薫・廣田 勇(京大・理):MU レーダーで観測された対流圏における中規模擾乱の構造
- A 210. 三浦信男(気象庁・数値予報):地域特性を考慮したアメダス風の統計的客観解析
- A 211. *岩倉 晋(気象庁),岡林俊雄:日本列島周辺の地上風の分布(富士山などの風下側の収束域について)
- A 212. 小泉 耕(気研・予報):逐次学習法による降水確率予想の試み
- 大気境界層と下層雲**
座長 中村晃三(東大・海洋研)
- *A 213. *和田保徳・遠峰菊郎・小林文明・原岡秀樹・緒方秀明(防大):係留ゾンデによる下層雲の雲底高度観測(霧の理解のために)
- A 214. *金 海東・木村龍治・中村晃三(東大・海洋研):層雲内に生じる細胞状湿潤対流
- A 215. *遠藤辰雄・大井正行・松村寛一郎・若濱五郎(北大・低温研),中村晃三(東大・海洋研),藤吉康志・石坂 隆・越田智喜・平沢尚彦・武田喬男(名大・水圏研):寒気吹き出し時海上層状雲における雲粒子雲水量の鉛直分布
- A 216. *堀口光章・永井晴康・光田 寧(京大・防災研):1991年1月奄美大島における下層雲と境界層の観測

- *A 217. 武田喬男・*松月 昇・加藤内蔵進(名大・水圏研):寒気吹き出しに沿った海上の下層雲群の変化の特徴
- *A 218. *藤吉康志・武田喬男・石坂 隆(名大・水圏研),早坂忠裕(東北大・理):冬季寒気吹き出し時の下層雲群の雲水量分布と放射特性

B会場 気象力学 II

座長 松田佳久(東大・理)

- B 201. 金久博忠(気研・予報):楕円形 modon の線形安定性
- *B 202. *石岡圭一・余田成男(京大・理):回転球面上での帯状流の非線形安定性について
- B 203. *野沢 徹(京大・理),酒井 敏(京大・教養),余田成男(京大・理):実験データから求められる相関次元についての一考察
- *B 204. 伊藤久徳(和歌山大・教育):プリミティブ・モデルの定常解と線形バランス・モデルの定常解・周期解を求める方法
- B 205. *H.L. Tanaka(筑波大),A. Kasahara(NC-AR):On the normal modes of Laplace's tidal equations for zonal wavenumber zero
- B 206. 阿部成雄(防大・地球科学): β -平面上の順圧渦の移動
- B 207. *吉本真由美(農環技研),木村竜治(東大・海洋研):台風の静力学モデルとしての source-sink vortex
- 海洋・大気相互作用**
座長 長井嗣信(気研・気候)
- B 208. 萩野谷成徳(気研・物理):降水擾乱が海上気象要素におよぼす影響
- B 209. 金 榮彦・*木村龍治(東大・海洋研):GMS 雲量を用いたバルク法による日本近海の熱収支
- B 210. *石井哲雄(麻布大),近藤純正(東北大・理):東シナ海における海面熱収支と海洋運搬熱の季節変化
- B 211. *渡邊朝生・水野恵介(遠水研),馬谷紳一郎(九大・応力研),中村啓彦(北大・理),松村阜月(遠水研):開洋丸による太平洋赤道海域の観測速報——1991/92 エルニーニョ——
- B 212. 関根義彦(三重大・生物資源):親潮及び北太平洋の亜寒帯循環の異常南下と大気大循環の変動との関連
- *B 213. *松村寛一郎・遠藤辰雄・竹内謙介(北大・低

温研)：グリーンランド周辺における大気-海水相互作用

- B 214. 吉川郁夫・木本昌秀(気象庁・数値予報)：気候監視のための海洋データ同化システム
- B 215. *尾瀬智昭(気研・気候), Carlos R. Mechoso (UCLA), David Halpern (NASA/JPL)：2つの異なった観測方法による海面水温データがGCM実験に与える影響について
- B 216. 鬼頭昭雄(気研・気候)：年々変動する実測海面水温を与えた場合と気候値海面水温を与えた場合の大気モデルの応答の違いについて
- *B 217. 鬼頭昭雄(気研・気候)：熱帯海面水温と北半球の夏の循環——数値実験から
- B 218. 時岡達志・鬼頭昭雄・*中川慎治(気研・気候)：北半球冬季における下層大気と海洋との相互作用について
- B 219. *長井嗣信・北村佳照・遠藤昌宏・時岡達志(気研)：大気-太平洋-インド洋結合モデル

C会場 大気成分

座長 堤之智(気研・物理)

- C 201. *山本 晋(資源環境研), 松尾浩嗣(豊橋技術科学大)：雑木林(松林)におけるCO₂収支の観測
- C 202. *山本 晋・蒲生 稔・近藤裕昭・林 正康(資源環境研)：西表島周辺におけるCO₂飛行機観測——その2——
- C 203. *西川雅高・篠原憂子(国立環境研), 安部喜也(東京農工大)：雨水中に含まれている“スス”含量の長期変動からみた環境の変化
- *C 204. *渡辺幸一(筑波大・環境), 神山孝吉(京大・理), 佐藤和秀(長岡高専), 渡辺典亜(極地研), 安成哲三(筑波大・地球科学)：南極氷床コア中の過酸化水素濃度の変動
- *C 205. *直江寛明(鹿児島地台), 木下紀正(鹿児島大・教育), 池辺伸一郎(阿蘇火山博物館)：火山ガス長距離移流と阿蘇における高濃度SO₂
- C 206. 石川裕彦・*山澤弘実・茅野政道(原子力研)：放射性物質の広域輸送モデルの開発
- C 207. *牧野行雄・忠鉢 繁・佐々木 徹・堤之智(気研・物理)：高分解能FTIRによる大気微量成分の観測(速報)
- C 208. *川上修司・近藤 豊・小池 真・岩坂泰信(名大・STE研)：西太平洋における対流圏のNO_y, NOの航空機観測
- *C 209. 中澤高清・*菅原 敏・田中正之(東北大・理)：太平洋上における大気中のメタン濃度の変動
- *C 210. 中澤高清・*村山昌平・森本真司・田中正之(東北大), 青木周司・山内 恭・渡邊興亜・川口貞男(極地研), 清水 明(国立環境研), 深堀正志(気研・物理)：南極域における大気中のCO₂の炭素同位体比 $\delta^{13}C$ の変動
- *C 211. *田近英一・松井孝典(東大・理)：地球の物質循環と大気・海洋の進化

酸性雨

座長 丸田恵美子(慶大)

- C 212. 石坂 隆・銭 公望(名大・水圏研)：霧の発生に伴う霧粒・エアロゾル粒子の組成の変化
- *C 213. *吉沢深雪(北大・環境), 菊地勝弘・遊馬芳雄(北大・理)：降雪粒子の酸性度と積雪・融雪過程に伴う変動
- C 214. *鶴田治雄(農環技研), 渡辺善徳・矢本てるみ(横浜市環境科研), 草野 一(横浜市環境保全局)：雷雨(にわか雨)と台風による降水成分の特徴
- C 215. *江口 卓・袴田共之・鶴田治雄(農環技研)：酸性降水物の季節変化・季節内変動と降水原因——冬季の非海塩起源硫酸イオンの変動——
- C 216. *丸田恵美子(慶大), 土器屋由紀子(気大), 小坂順一(東京航空地台), 林 和彦(函館海洋), 石塚 寛(東京管区), 多田正男(富士山測)：富士山における降水の化学成分の季節変化
- C 217. 福岡義隆(広島大・総合科学)：降水の酸性度(PH 値)の季節変化と時間変化について
- C 218. *福岡義隆(広島大・総合科学), 宮田賢二・佐藤千恵(広島女大)：降水の酸性度(PH 値)と雨雲の移動ルートとの関係
- C 219. *佐藤純次・里村雄彦・佐々木秀孝(気研・応用), 村治能孝(国際気象海洋)：乾性沈着, 降水洗浄及び変質を考慮した長距離輸送モデル
- C 220. *Lee, C.-S.P.・北田敏廣(豊橋技術科学大), 植田洋匡(九大・応力研)：冬期日本海上で生成する雪雲が酸性物質の生成・輸送に及ぼす影響——数値モデルによる研究——

D会場 中層大気

座長 中村卓司(京大・超高層)

- D 201. *山中大学・深尾昌一郎・近藤成治・下舞豊志・

- 橋口浩之・村山泰啓・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層), 柴垣佳明・前川泰之(大阪電通大), 渡辺 明(福島大・教育), 高藪 出(気研・応用): 圏界面重力波の変動度: 3週間連続 MU レーダー観測結果の解析
- D 202. 佐藤 薫(京大・理): 下部成層圏慣性重力波の季節変化(2)
- *D 203. *津田敏隆・村山泰啓・藤田篤志・加藤 進(京大・超高層): インドネシア赤道域における重力波のラジオゾンデ観測
- *D 204. *西山和博・深尾昌一郎・山本 衛(京大・超高層), R.D. Palmer(クレムソン大), 山中大学・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): MU レーダー干渉計観測による大気乱流層の研究
- *D 205. *黒崎 聡・山中大学・深尾昌一郎・橋口浩之・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層): 中層大気鉛直渦拡散係数の季節変動及び経年変動—1986~90年の5年間にわたる MU レーダー観測結果の解析—
- D 206. *前川泰之(大阪電通大), 深尾昌一郎・山本 衛・山中大学・津田敏隆・加藤 進(京大・超高層), R.F. Woodman(ペルー地球物理研): ヒカマルカレーダーによる上部成層圏の鉛直風観測と乱流散乱強度との関係
- *D 207. *村山泰啓・津田敏隆(京大・超高層), 小山孝一郎(宇宙研), 神沢 博(極地研), 山中大学・中村卓司・深尾昌一郎・加藤 進(京大・超高層): ロケットと MU レーダーで観測された中層大気中の重力波エネルギーの高度変化
- *D 208. *下舞豊志・山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層): 局在する飽和内部重力波の場に関するウェーブレット・モデル
- *D 209. *中村卓司・津田敏隆・村山泰啓・加藤 進・深尾昌一郎(京大・超高層), A.H. Manson・C.E. Meek(サスカチュワン大), R.A. Vincent(アデレイド大): 中間圏重力波の強度, 伝搬方向のレーダー観測——Shigaraki (35°N), Adelaide (35°S), Saskatoon (52°N) の比較——
- *D 210. *堤 雅基・中村卓司・津田敏隆・加藤 進・深尾昌一郎(京大・超高層): MU レーダーを用いた流星観測による中間圏界面付近の温度変動の観測
- D 211. *中村卓司・津田敏隆・山本 衛・加藤 進・深尾昌一郎(京大・超高層): MU レーダー/流星レーダーで観測した高度 60~110 km の平均風
- D 212. *宮原三郎・吉田容子・三好勉信(九大・理): 下部熱圏の運動と鉛直熱輸送(中層大気大循環モデルによるシミュレーション)
- D 213. *山崎孝治・小寺邦彦(気研・気候): 成層圏帯状平均東西風の EOF 解析 Part I. 北半球
- D 214. *山崎孝治・小寺邦彦(気研・気候): 成層圏帯状平均東西風の EOF 解析 Part II. 南半球
- D 215. 丸山健人(気研・予報): 成層圏赤道波の鉛直波長・周期スペクトル(続): シンガポール 1984~1991
- *D 216. *高橋正明(東大・気候システム), B.A. Boville(NCAR): 準2年振動(QBO)の3次元モデル: II—大循環モデルによる実験及び考察—

大会第3日(5月28日)9時00分~12時30分

A会場 メソ現象 III

座長 永田 雅(気研・予報)

- *A 301. 大河内康正(八代高専): 局地循環モデルの領域及びメッシュ幅依存性
- A 302. *西澤慶一・田中正之(東北大・理): 前線の形成に関する三次元数値実験(3)——地表面摩擦の影響——
- A 303. 青梨和正(気研・予報): Physical Initialization による降水情報の数値予報初期値化への導入について
- A 304. *佐々木秀孝・木田秀次・小出 孝・千葉 長(気研): 局地気候モデルの開発(5)——JSMの利用——
- *A 305. *高藪 出・新野 宏(気研), 山中大学・深尾昌一郎(京大・超高層): 本州上空での低気圧-前線系の形成に及ぼす山岳の効果について—1990年12月11日の低気圧の事例解析—
- A 306. 青梨和正(気研・予報): JSM 予報による低気圧に伴う前線の振舞いについて(序報)1990年12月11日の事例
- A 307. *斉藤和雄・青梨和正・新野 宏(気研): 非静水圧ネステッドモデルによる移動する擾乱のシ

ミュレーション——1990年12月11日千葉県茂原市の竜巻の日の例——

- A 308. *高野 功 (気象庁・予報), 瀬上哲秀 (気象庁・数値予報): 10 km メッシュモデルによる関東南岸のシャーラインの事例解析
- A 309. 永田 雅 (気研・予報): 発達中の南岸低気圧に伴う関東平野の沿岸前線と大雪—超細格子モデルによる予報実験—(第2報)
- *A 310. *坪木和久・浅井富雄 (東大・海洋研): 冬期日本海上に発生するメソスケール低気圧の数値実験——山岳と非断熱加熱の役割について——
- メソ現象 IV**
- 座長 新野 宏 (気研・物理)
- A 311. *大野久雄・鈴木 修・葦沢 浩(気研・衛星観測), 小倉義光 (東大・海洋研): 岡山マイクロバースト 1991年6月27日 I—岡山空港での突風—
- *A 312. *大野久雄・鈴木 修・葦沢 浩(気研・衛星観測), 小倉義光 (東大・海洋研): 岡山マイクロバースト 1991年6月27日 II—国府市場(電柱倒壊場所)および市中心部での突風—
- A 313. 長谷川直之 (気象庁・数値予報): 岡山マイクロバースト 1991年6月27日 III 数値予報によるポテンシャル予報の可能性について
- A 314. *吉崎正憲・大野久雄 (気研): 岡山マイクロバースト (1991年6月27日) IV 積雲対流モデルによる数値実験
- A 315. *小林文明・内藤玄一・道本光一郎(防大・地球科学): 冬季, 日本海上の降雪雲に伴って発生した竜巻—1991年12月11日金沢市の突風災害—
- A 316. *山田芳則・松尾敬世・村上正隆・水野 量・榊原 均 (気研), 中井専人・真木雅之(防災科研・つくば): Tモード降雪雲の気流構造—1991年2月5日の事例解析—
- *A 317. *佐藤晋介・立花義裕・伊藤進一・松村寛一郎・荒井美紀・大井正行・遠藤辰雄・竹内謙介 (北大・低温研), 藤吉康志・三隅良平・越田智基・吉本直弘 (名大・水圏研), 岩崎博之(気研・台風), 坪木和久・川島正行 (東大・海洋研): 3台のドップラーレーダーによる降雪雲内の風速場の解析
- A 318. *鈴木 修・大野久雄・葦沢 浩(気研・衛星観測): 関東地方を南下した寒冷前線の局地的な

ふるまい II「関東平野北部に形成された寒気の解析」

- A 319. 高橋俊二 (気研・応用): 微少地形による form drag の数値実験
- *A 320. 佐藤 薫 (京大・理): MU レーダーで観測された真夏の午後の鉛直風擾乱
- *A 321. *木崎正士・足立樹泰・津田敏隆 (京大・超高層), 増田悦久 (通信総研), 深尾昌一郎・加藤進 (京大・超高層): MU レーダー/RASS による前線に伴う擾乱現象の観測

B会場 気候変動 I

- 座長 新田 勳 (東大・気候システム)
- *B 301. 篠田雅人 (都立大・地理): 18000年前の熱帯アフリカにおける降水量分布
- B 302. 齊藤達也 (茨城県日立工高), 太田貞明(森林総研): 樹木年輪情報による気候変動の解析
- *B 303. 米谷恒春 (防災科研): 1900年以降の日本での気候の変化
- *B 304. *吉村 純 (東京航空地台), 新田 勳 (東大・気候システム): 全球地上気温の長期変動(2)
- B 305. 小寺邦彦 (気研・気候): 対流圏と成層圏に見られる準10年変動について
- *B 306. *谷本陽一 (東北大・理), 岩坂直人 (東京商船大), 花輪公雄・鳥羽良明 (東北大・理): 北大西洋における海面水温の長期変動
- B 307. *大西晴夫・菊池哲也 (気象庁・予報): 台風の1980年及び1990年平年値に見られる特徴
- B 308. *西山浩司・高橋 劭 (九大・理): 熱帯パプアニューギニア地域における月別降水量の年々変動について

気候変動 II

- 座長 千葉 長 (気研・気候)
- B 309. 大和田道雄・*石川由紀 (愛知教育大): 本邦付近における最近の 500 mb 面高度場における気圧の谷の変動
- *B 310. *川村隆一 (防災科研), 西森基貴 (筑波大・地球科学): 北半球冬季 500 mb 高度場における intramonthly-interdecadal scale のテレコネクションの climatology
- B 311. 佐藤康雄 (気研・気候): 最近のテレコネクションパターン
- *B 312. 王 亜非 (筑波大・地球科学): E-P フラックスで中・高緯度から熱帯へ至るロスビー波の診

断解析

- B 313. H.L. Tanaka (筑波大): Is it tropospheric sudden warming?
- B 314. *富田智彦・安成哲三 (筑波大・地球科学): ENSO 最盛期の差異について
- B 315. *谷田貝亜紀代・安成哲三(筑波大・地球科学): 中国乾燥・半乾燥地域, 及びその周辺地域における降水と水蒸気輸送について
- B 316. *五十嵐弘道・安成哲三 (筑波大・地球科学): ユーラシア大陸における積雪深の年々変動と夏季モンスーンとの関係について
- B 317. 杉 正人 (気研・気候): 87, 88 年夏の モンスーンに関する数値実験 (3)
- *B 318. *安成哲三・高橋 理・田 少奮(筑波大): 南半球大気大循環における準 2 年振動

C 会場 ピナツボ噴煙

座長 中島映至 (東大・気候システム)

- C 301. *長澤親生・阿保 真 (都立大・工): ラマンライダーによる成層圏エアロゾルの消散係数の測定
- C 302. *阿保 真・長澤親生 (都立大・工): 色素ライダーによる成層圏エアロゾル層の観測
- C 303. 柴田 隆・板部敏和 (通信総研), *石井昌憲 (電通大), 笠原誠治・浅井和弘 (東北工大): 通総研によるピナツボ火山噴火雲ライダー観測
- C 304. *藤本敏文・内野 修・永井智広 (気研・衛星観測), 井手迫義和 (筑波大・環境), 宮川幸治 (高層气象台): ライダーによるピナツボ火山起源成層圏エアロゾルの観測—つくば—
- *C 305. *永井智広・内野 修・藤本敏文 (気研・衛星観測), 裁 吉信・砂川友一・玉城和男・野村竜一 (沖縄气象台): 沖縄におけるピナツボ火山噴火後の成層圏エアロゾル層のライダー観測
- C 306. 浅野正二 (気研・気候): ピナツボ火山ダストによるピンショップ光環. II. 色彩のシミュレーション
- C 307. *浅野正二・内山明博・塩原匡貴(気研・気候): ピナツボ火山ダストの粒径分布: サンフォトメータ地上観測からの推定
- C 308. *松井一郎・笹野泰弘・林田佐智子・中根英昭 (国立環境研): ピナツボ火山噴火に伴う成層圏エアロゾル層の変動に関する研究(2) ミー散乱

多波長ライダーによる観測

- C 309. *高村民雄 (防大), 笹野泰弘 (国立環境研): 90—92年にかけての大気混濁度の変動
- C 310. *松原廣司・松原和正・小城良友・岸 隆幸・五十嵐 弘・東島圭志郎・赤木万哲 (気象庁・南極観測事務所), 浅野正二 (気研・気候): サンフォトメータ法によるピナツボ火山ダストの緯度分布の観測(I)—1991年観測結果—
- C 311. 中島映至・羽角博康・*仙波秀志(東大・気候システム): ピナツボ火山噴火に伴う成層圏汚染—GMS からのリモートセンシング

エアロゾル

座長 池上三和子 (気研・物理)

- *C 312. 中島映至 (東大・気候システム), *早坂忠裕 (東北大・理), Y. Najafi, M. Marzani・H. Valavi (Department of the Environment of Iran): イランにおける太陽放射観測とエアロゾルの光学的特性
- C 313. *田中 茂・柳沢健司・渡辺和章・橋本芳一(慶大・理工), 土器屋由紀子 (気大), 向井人史 (国立環境研): クウェート油井火災によるペルシャ湾の大気汚染の実態調査
- C 314. *兼保直樹・山本 晋・蒲生 稔・林 正康(資源環境研): 九州北西部海上で観測されたエレメンタルカーボン粒子の高度分布
- C 315. *三浦和彦・塩原厚彦・中江 茂・関川俊男(東京理大・理), 熊倉俊郎 (東大・気候システム): 地球規模でのバックグラウンドエアロゾルの水平分布と大陸性エアロゾルの影響(その 5) 日本近海における Aitken 粒子の水平分布(2)
- *C 316. 岡田菊夫 (気研・応用), 樊 小標(中国大気物理研), 新村典子・甲斐憲次 (筑波大), 荒生公雄 (長崎大), 岩坂泰信 (名大・STE 研), 池上三和子 (気研・物理), 石 廣玉(中国大気物理研), 光田 寧 (京大・防災研): 長距離輸送中における黄砂粒子の変質—海塩成分を含む黄砂粒子に注目して
- C 317. 岡田菊夫 (気研・応用), 古賀聖治(名大・水圏研), 毛利英明 (気研・応用): 熱帯太平洋大気におけるサブミクロン粒子の性状
- C 318. *池上三和子・岡田菊夫・財前祐二・牧野行雄 (気研): 対流圏中・上部における硫酸粒子の元

素分析 (1)

- C319. *財前祐二・池上三和子・牧野行雄 (気研・物理), 光田 寧 (京大・防災研): 張掖におけるエアロゾル濃度の測定—その 2 1991年3月~12月—
- C320. *財前祐二・池上三和子・堤 之智・牧野行雄・岡田菊夫 (気研): 大阪から宮古島南方海域の上空における CNC を用いたサブミクロンエアロゾルの測定

D会場 観測手法

座長 内藤玄一 (防大・地球科学)

- D301. *山根理子 (東大・気候システム), 沖 大幹 (東大・生産研), 住 明正 (東大・気候システム): レーダアメダス合成図による TRMM サンプリングエラーの検討
- D302. *花土 弘・佐竹 誠・大崎祐次・堀江宏昭・中村健治 (通信総研): 同時受信偏波降雨レーダ実験—システム—
- D303. *橋口浩之・山本 衛・深尾昌一郎・津田敏隆・山中大学・中村卓司 (京大・超高層), 佐藤 亨 (京大・工), 加藤 進 (京大・超高層), 牧平経市・浜津亨助 (三菱電機): 小型可搬式大気境界層観測レーダーの開発 (2)
- D304. *木津昭一・川村 宏 (東北大・理): マイクロ波放射計 SSM/I と高層ゾンデ観測による積算水蒸気量の比較
- D305. 坂尻政市・*中井公太 (気象庁・測候), 小出寛 (仙台管区): 降雨に伴うレドーム水膜によるレーダー電波の減衰
- D306. *津田敏隆・和田財太・加藤 進 (京大・超高層): MU レーダーで得られる反射エコーを用いた湿度プロファイルの推定方法の開発
- *D307. *河崎善一郎・小田直樹・松浦虔士 (大阪大), 園井康夫・山田 勝・中西 豊・松井敏明 (関西電力): SAFIR の気象用レーダ観測結果との照合による標定精度の評価
- D308. *中村洋一・矢島幸雄・古田寿一・渡部 毅・響田 昇 (日本工大): WEFAX 画像による雲分布の解析
- D309. *徳野正己・湧川貞二 (気象衛星センター):

AVHRR (3.7 μm 帯と 11 μm 帯) データによる自動雲型判別

- *D310. *松本雅雄 (九州工大), 竹内延夫 (千葉大・隔測研): エアロゾルの後方散乱係数と消散係数の関係
- D311. *内藤玄一・山崎篤磨・前田直樹・小林文明・神戸栄治 (防大・地球科学): 種々の入力データに対応できる画像解析システム
- D312. *近藤昭彦・大久保秀之・三上岳彦・菅野洋光 (都立大・地理): GPS と GIS を用いた気温の移動観測の手法について
- 局地風

座長 森 征洋 (香川大・教育)

- D313. 三上岳彦・大久保秀之・岡 秀一・*菅野洋光・近藤昭彦 (都立大・地理): 赤城山南西斜面上に形成される斜面温暖帯の季節・天候別の出現状況について
- D314. *上野健一 (筑波大), 白岩孝行・山田知充 (北大・低温研): 1990年冬期, ネパールヒマラヤにて観測された昇温現象について
- D315. *佐橋 謙 (岡山大・教育), 井上治郎 (京大・防災研), 陳 宣家 (北京大・理): HEIFE 領域の風について (卓越風は山谷風か?)
- D316. *大和田道雄・石川由紀 (愛知教育大): 東海地方における移動性高気圧時の風の時間的・空間的变化
- D317. *千葉 修・金堂由起・川村学史 (高知大・理): 高知県における海風の特徴
- *D318. *森 征洋 (香川大・教育), 鎌田章司 (飯山北小): 脇川河口における 風の日変化特性について—強い“陸風”の事例研究—
- D319. 菅野洋光 (都立大・地理): 八戸におけるヤマセと海風の気候学的特性
- D320. *力石國男・飯田秀重 (弘前大・理), Charles W. Ziskin (コロラド大): ヤマセの発生と大気大循環の変動に関する研究 (I)
- D321. *飯田秀重・力石國男 (弘前大・理), Charles W. Ziskin (コロラド大): ヤマセの発生と大気大循環の変動に関する研究 (II)

大会第3日(5月28日)13時30分~17時00分

A会場 雲物理・大気電気

座長 山田芳則(気研・物理)

- A 351. *小林文明・内藤玄一・遠峰菊郎・道本光一郎・緒方秀明・原岡秀樹・和田保徳(防大・地球科学), 郷津寿夫・酒井 勉・永森 淳(北陸電力(株)技研): 小松空港周辺における冬季雷雲観測
- A 352. *道本光一郎(防大・地球科学), 長田正嗣(日本無線(株)): 小松 飛行場周辺の冬季航空機被雷時のレーダエコーと地上電界変化
- *A 353. *緒方秀明・遠峰菊郎・阿部成雄(防大): 冬季北陸における航空機被雷地点付近の地上電界値について
- *A 354. *石田晴彦・播磨屋敏生(北大・理): 雨滴粒径分布の特徴とその形成機構
- A 365. 中島映至(東大・気候システム): 大気汚染に伴う低層雲の変質とその気候影響
- A 355. *水野 量・松尾敬世・村上正隆・山田芳則(気研・物理), 梶川正弘ほか(秋田大・教育), 石坂隆ほか(名大・水圏研): マイクロ波放射計による対流性降雪雲の雲水量の観測
- *A 356. 村上正隆(気研・物理), Roy Rasmussen (NCAR/RAP): 斜面滑昇によって形成された層状性降雪雲の微物理構造の観測
- A 357. *梶川正弘・奥原京一(秋田大・教育): 雪結晶の落下運動について(5)
- A 358. *沢田敏隆・播磨屋敏生・金村俊俊・石田晴彦(北大・理), 佐藤晋介・遠藤辰雄(北大・低温研): 内陸部に降る降雪粒子の雲粒捕捉成長過程について
- A 359. *高橋庸哉(北海道教育大), 遠藤辰雄(北大・低温研), 若濱五郎(北大名誉教授): 鉛直過冷却雲風洞による初期氷晶併合実験
- A 360. *長尾吉広・高橋 劭(九大・理): 霰と霰の衝突による氷晶芽の発生
- *A 361. *水野 量・松尾敬世(気研・物理): あられ粒子間の衝突: 観測と厳密式
- A 362. *松尾敬世・村上正隆・水野 量・山田芳則(気研・物理): 降雪の少ない雪雲の特徴と SEED-ING 効果
- *A 363. *今須良一(資源環境研), 岩坂泰信(名大・STE 研): 巻雲の散乱パラメータの測定と内部

構造

- *A 364. *菅野正人(北大・環境), 菊地勝弘・遊馬芳雄(北大・理): 層積雲の雲頂の凹凸度とその放射特性
- *A 366. *山本寿史・高橋 劭(九大・理): マヌス島積乱雲内の降水粒子分布——J-COARE 予備観測
- A 367. *織田真之・高橋 劭(九大・理): マヌス島積乱雲内の降水粒子電荷測定——J-COARE 予備観測
- A 368. *権田武彦・新井 聡(東京理大・理工): 気相から成長する氷結晶の表面融解現象

B会場 グローバル気候

座長 岩嶋樹也(京大・理)

- B 351. 岩嶋樹也(京大・理): エネルギー平衡モデルによる全球・半球地上平均気温変動の解析
- B 352. *田村栄一・浅井富雄・木村竜治(東大・海洋研): エネルギーバランスモデルによるグローバルな気温の推定
- B 353. *谷貝 勇(気研・気候), Cess (ニューヨーク州立大), Potter (ローレンスリヴァモア研): 大気大循環モデルの国際比較実験と炭酸ガス強制力について
- B 354. 田口彰一(資源環境研): 水蒸気の鉛直輸送を導入した NCAR-CCM 1 の気候
- B 355. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 増田耕一(東大・理): 流域水収支に対する客観解析データの応用(II)
- B 356. 千葉 長(気研・気候): 地上気圧の季節変化
- *B 357. *内藤勲夫・菊地直吉(国立天文台): 大気励起関数の変動周期とモード

熱帯大循環

座長 西 憲敬(京大・防災研)

- *B 358. *寺尾 徹・村松久史(京大・防災研): 夏季アジア中緯度偏西風帯にみられる顕著な季節内変動について
- B 359. 和方吉信(東海大・海洋): 熱帯域水蒸気量の季節内変動について SMMR と ECMWF の比較
- *B 360. *高藪 縁(国立環境研), 新田 勲(気大): 熱帯太平洋積雲対流擾乱の構造変化—経度変化と年々変化—

- B 361. *山崎信雄・村上勝人(気研・台風):スーパー
クラスタースケールでのエネルギー収支の計算
- B 362. *中澤哲夫(気研・台風), 内田裕之(気象衛星
センター): TOGA-COARE に向けた熱帯域
循環場算出について
- *B 363. 隈 健一(気象庁・数値予報): 気象庁全球モ
デル水惑星版に現れた M-J 振動
- B 364. *保坂征宏・林 祥介(東大・理): 熱帯域にあ
る局所的な暖水域が大気に与える影響(第一報)
- C会場 放射**
- 座長 増田一彦(気研・衛星観測)
- C 351. *粟倉美砂子・西沢利栄(筑波大・地球科学):
裸地表面のアルベドと土壌水分の関係について
- *C 352. *青木輝夫・青木忠生・深堀正志(気研・物理):
大気-積雪系の多重散乱フラックスモデル
- C 353. *青木輝夫・青木忠生・深堀正志(気研・物理):
大気-積雪系の多重散乱放射輝度モデル
- C 354. *高島 勉・増田一彦(気研・衛星観測): 大気
上端の放射輝度に及ぼす不均質地表面の影響
- C 355. 楠 研一(新潟地台): 角柱氷晶によるハロー
のシミュレーション——観測されたハローとの
比較——
- C 356. 真野裕三・内山明博(気研・気候): プレート
状氷粒子の散乱特性について
- C 357. *内山明博・塩原匡貴・浅野正二(気研・気候):
巻雲の可視・近赤外域の放射特性の観測
- C 358. 岩崎俊樹(気象庁・数値予報): 気象庁全球モ
デルによる1年積分IV: 放射収支
- C 359. *木津昭一・川村 宏(東北大・理): GMS-
VISSR データを用いた地表における日射量の
評価(第3報)
- C 360. 真野裕三(気研・気候): 衛星からの地表全天
日射量の推定
- C 361. 野田 彰(気研・気候): 短波放射計算におけ
る雲の重なる取り扱い
- C 362. *柴田清孝・内山明博(気研・気候): ラインパ
ラメータの変動が放射強制力に与える影響につ
いて
- C 363. 門倉真二(地磁気観測所): 放射スペクトル輸
送モデルの高速計算スキーム
- C 364. *小川利紘(東大・理), 下田陽久(東海大),
林 正康・今須良一(資源環境研), 小野 晃
(計量研), 西宮 昌・小林博和(電力中研): 対

流圏微量気体の衛星観測(ADEOS/IMG)

- C 365. *今須良一・林 正康(資源環境研), 小川利紘
(東大・理): 衛星搭載赤外分光計による微量気
体の測定: シミュレーション I
- C 366. *中島映至(東大・気候システム), 鈴木 睦・
笹野泰弘(国立環境研): ILAS 放射計による
気温と圧力鉛直分布の推定—2
- C 367. *増田一彦・高島 勉(気研・衛星観測): 航空
機搭載型 POLDER による海洋性エアロゾルの
推定
- C 368. *青木忠生・深堀正志・青木輝夫(気研・物理):
地上設置型水蒸気リモートセンサの開発(II)
- D会場 環境気象**
- 座長 大和田道雄(愛知教育大・総合理学)
- D 351. *川島茂人(農業研究センター), 高橋裕一(山
形県衛生研): スギ開花日マップの作成手法
——スギ花粉の拡散過程に関する研究——
- *D 352. 柳原一夫(気象協会): ファジィで測る 不快感
と不快指数
- D 353. *岡本和人(東洋女短大), 荒川きよ子・伊藤敏
和(東京学芸大): 温室効果および成層圏オゾ
ン破壊の北日本農業への影響
- D 354. 中国山地の霧研究グループ(*宮田賢二・田村
貴代子・箱崎典子・蔵西小百合・佐藤千恵(広
島女大), 高山 大・上杉和哉・岡村康伸・高橋
清和・蓬臺正信・山崎誠導・吉田康夫(広島地
台), 尾崎友亮(気象庁・数値予報)), 野宮山洋
之(広島大・総合科学): 中国山地の霧の研究
(6) (地形の異なる盆地の霧の比較)
- D 355. 牛山素行(信州大・農): 雨水発生可能な気温
鉛直分布の形成頻度——雨水現象による森林災
害の研究 第4報——
- D 356. *佐橋 謙・日枝隆司(岡山大・教育), 山下栄
次(岡山理大・理): 係留気球による NO_x の鉛
直分布の測定(第2報)
- *D 357. 河村 武・甲斐憲次・*朴 恵淑・浦 健一(筑
波大): 環状八号線上空に発生する雲(環八雲)
の気候学的考察
- D 358. *片山忠久(九大), 石井昭夫(九州芸術工大),
堤 純一郎(東和): 都市・建築環境におけ
る気温分布に関する研究(その1) 都市域にお
ける実測調査
- *D 359. *堤 純一郎(東和), 石井昭夫(九州芸術工

大), 片山忠久 (九大): 都市・建築環境における気温分布に関する研究(その2) 中層建物群周辺における実測調査

- *D360. *石井昭夫 (九州芸術工大), 堤 純一郎 (東大), 片山忠久 (九大): 都市・建築環境における気温分布に関する研究(その3) 単独中層建物前後における実測調査

D361. 大和田道雄 (愛知教育大・総合理学), 神谷俊彦 (豊田市立高嶺小), *中村達博 (愛知教育大), 杉江浩二 (気象協会・東海): 都市域の拡大に伴う盆地底都市の気温逆転度の変化

- *D362. *山添 謙 (日大・地理), 一ノ瀬俊明 (東大・工): 東京およびその周辺地域におけるヒートアイランドー放射環境の差異による解析一

1992年地球化学研究協会学術賞「三宅賞」の受賞候補者 および研究助成候補者の推薦依頼について

三宅泰雄教授退官記念事業として、設立された(1972)地球化学研究協会は、その翌年から、地学に顕著な業績をおさめた科学者に、毎年、地球化学研究協会学術賞「三宅賞」を贈呈しています。

さらに1983年からは、海外シンポジウム等に参加し、論文を発表する地球化学の若手研究者に対し、助成を行っています。

なお、賞金および助成金は本協会を母体として、1983年に新設された公益信託「地球化学研究基金」(受託者: 東洋信託銀行株式会社)から贈られます。

つきましては、下記の要領により、受賞候補者および研究助成候補者のご推薦をお願いします。

記

三宅賞

1. 本賞は地球化学に顕著な研究業績をおさめた科学者に贈呈します。
2. 本賞は賞状とし、副賞として賞牌および賞金(30万円)をそえます。
3. 本賞の贈呈は、1年1件(1名)とします。
4. 規定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由(400字程度)主な論文10編程度に略歴をそえて、協会事務所までお送り下さい。

研究助成

1. 研究助成は地球化学の研究者で、海外のシンポジウム等に参加し論文を発表する者、ならびに海外における学術調査研究などに参加する者に対して行なわれます。
2. 助成金は1件10万円とし、年に3件とします。
3. 規定の用紙に推薦候補者(各締切日において満40歳までとする)のシンポジウム出席については略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、開催年月日)論文題目、推薦理由等を、海外学術調査に関しては、略歴、研究業績、調査地(国名、地域名)、調査目的・計画、推薦理由、同行者などを記入して、協会事務所までお送りください。

三宅賞の贈呈および研究助成者の発表は、1992年12月5日(土)、東京で行ないます。

申込締切日は、三宅賞は、1992年8月31日(月)、研究助成は、第1回締切1992年8月31日(月)、第2回締切1993年1月末日。

地球化学研究協会

〒166 東京都杉並区高円寺北4-29-2-271

電話 03-3330-2455

(FAX 兼用)